

## 業 界 短 信

(20 年 9 月 1 日～9 月 30 日)

### 松本シャリング工場、本社にプラズマ増設（産業新聞、9 / 2）

㈱松本シャリング工場（大阪市住之江区、中嶋秀章社長）は、来年 2 月にも本社工場にプラズマ 1 基を増設する方向で検討している。増設後、同社のプラズマは 3 基体制となる。今回の増設は切板の高品質化と生産性の向上が狙い。今後も切板のきめ細かい受注を展開し、数量の維持、拡大を目指す方針。現在、本社の加工設備はプラズマ 2 基、NC 溶断機 2 基、アイトレーサー 5 基、レーザ 4 基、自動開先機 1 基、穴明け機 3 基、開先用ロボット 2 基。産機、建機、建築向けが主体で、月間切板数量は約 1000 トン。

### 協和スチール、新本社事務所を建設（産業新聞、9 / 2）

協和スチール(株)（兵庫県加西市、林憲一社長）は来年 2 月頃の完成予定で、新本社事務所を建設する。既存事務所の老朽化が激しく、安全対策と業務効率化を図るため、建設するもの。着工は 9 月 3 日から。

### テクノタジマ、NC ガス切断機導入（鉄鋼新聞、9 / 3）

㈱テクノタジマ（名古屋市南区、田島徹也社長）は、溶断部門の生産性向上を図るため老朽化したフレームプレーナー 1 基を最新の NC ガス切断機にリプレースしてこのほど本格稼働に入った。さらに 9 月中にショットブラスト機も新鋭機に更新する。同社は本社工場で構造用鋼を主力とする特殊鋼バー材の切断加工、普通鋼厚板の溶断加工、工作機械の専用機用フレームの製缶加工を行い、工作機械、産機メーカーに納入している。溶断部門は NC ガス 5 基、NC プラズマ 2 基を保有している。

**武部産業、大型レーザが本格稼働（鉄鋼新聞、9/3）**

武部産業㈱（千葉県浦安市、中谷誠一郎社長）は、大型レーザの営業生産を開始した。板厚12ミリ以下を中心に最大16ミリの寸法切断、異形加工、穴開けを手掛ける。従来のレーザ加工外注分の内製化に新規需要開拓も加えて、当面はレーザ単体で月間200トンを目指す。一昨年に設置したプラズマと併用して、最適ツールの選択が可能となり、生産性向上と納期対応力強化につなげる。12ミリまで切断可能であったシャーリング機と経年劣化した旧型のプラズマを撤去。この代替として4KW 発振器を搭載した大型レーザを導入した。構内にはガス、プラズマ、開先機が揃い、幅広い加工ニーズを満たす設備体制が整った。同社は建築・プラント、製缶向けや仲間販売が主体。切板加工販売量は月間平均で約400~450トン。

**インスマタル、北海道に「CAD センター」（鉄鋼新聞、9/4）**

㈱インスマタル（千葉県浦安市、福井英人社長）は、来年4月に、北海道標茶町に「CAD センター」を開設する。受注増や加工能力アップに対し、CAD データ作成が追い付かないのが現状。既存のCAD スペースが手狭で、都市部での人材採用難も考慮し、かねてからの道内でのCAD センター構想を具体化する。8月末には現地で起工式を終え、着工に入った。09年4月の開設に先駆けて地元標茶高卒業生4人を採用した。客先からFAX で送られた加工図面をもとに、レーザや折り曲げ加工機などNC 制御装置付きの加工設備を稼働させるためのデータを、CAD システムで作成する。作成データは光通信網を通じて、リアルタイムに工場に送信される。

**栃木シャーリングの新工場、今秋全面稼働へ（鉄鋼新聞、9/8）**

栃木シャーリング㈱（栃木県真岡市、市川稔社長）は、隣接する二宮町に建設中の新工場でフォークリフト部品（フレーム部分）のショット・塗装を開始した。現在は調整・試運転を兼ねながら1日20台ペースだが、フル操業時には2直で日産160台まで引き上げる。建屋外装はほぼ完成し、9月下旬から新規設備や既存設備を順次、設置・移設する。10月末までにすべての移転作業を完了させる運び。新工

場では、厚板溶断、二次加工・機械加工、部材溶接、フレーム製缶、塗装を一貫加工する。総投資額は28億円。

### 三原商事東濃金属、本社にレーザ増設（産業新聞、9/8）

㈱三原商事東濃金属（岐阜県可児市、三原吉城社長）は、本社第3工場にレーザ1基を増設し、8月下旬から稼働を開始した。レーザ2基による24時間体制を構築することで異形切断加工における納期、制度の能力向上を図るとともに、産機向けなども視野に幅広い需要への対応力を高めていく考えだ。投資額は約5000万円。また、本社及び関東工場の穴あけ設備計6基を本年11月までに更新し、全社的な効率向上も進めていく。現在の加工量は本社と関東の2拠点で月間3700-3800トン。

### ミュキスティール、大型プラズマ切断機導入（鉄鋼新聞、9/10）

ミュキスティール㈱（茨城県結城市、小林茂社長）は、納期対応力強化の目的で、大型プラズマを導入。同社は6月にプラズマを、7-8月にかけてNCガスを1台ずつ設置した。プラズマで16-32ミリを対象とし、それ以上はガスで溶断する。リフレッシュ後の設備体制はレーザ2基、プラズマ1基、NCガス2基となり、このほか簡易NCガス、ミニトレサ、穴あけ、開先、曲げなど2次加工機群となる。同社はミュキ鋼材の子会社で、建機、産機、プラント、車両、土木向けなど幅広い需要分野を対象に、月産850トン程度をこなす。

### 熱金鋼業、本社に新ヤード開設（産業新聞、9/10）

熱金鋼業㈱（愛知県弥富市、山村薫社長）は、本社弥富工場の隣接地に約8600平方メートルの新ヤードを開設する。加工量の増加に伴い、工場内が手狭になってきたことに対応し、残材も含めたストック能力を約30%引き上げ荷繰り作業の効率化を図ることで、生産性を10-15%程度高めていくことが主目的。同時に安全性の向上にもつなげてゆく。5日から用地の造成工事に着手し、11月末ごろに完成の予定。

### ニューエイジ、切板納期対応力を強化（鉄鋼新聞、9/12）

ニューエイジ㈱（茨城県結城郡、池田啓志社長）は、昨年から今年にかけて順次、大型プラズマを導入し、昼夜 2 直シフトを採用したことで、長時間連続操業が可能となり、切板製品の納期対応力が増した。生産性が向上し、現場作業者の負荷軽減にも寄与した。

### 近江産業、チョッパーを更新（鉄鋼新聞、9/16）

近江産業㈱（大阪市中央区、小八木規之社長）は、このほど鶴浜鉄鋼センターの大型ジャンボレベラーのサイドトリマー・チョッパーを更新した。ボトルネックになっていたチョッパーの更新で 20%程度の生産性アップを見込んでいる。更新工事は 8 月末から 9 月初めにかけて実施した。鶴浜の大型ジャンボレベラーは広幅、厚物コイルのシート需要の増加からフル稼働状態にあり、広幅、長尺シートを処理できる同社の看板ライン。月産量は 6000-7000 トン。

### メタルワンと京葉ブランキング工業、江蘇省に厚板加工合弁（産業新聞、9/17）

㈱メタルワンと京葉ブランキング工業㈱は 16 日、中国・江蘇省呉江市に合弁で建機向け厚板の溶断・加工製品製造会社、蘇州美達王鋼鉄制品を本年 2 月に設立したと発表した。7 月には建屋の着工に入り、09 年年初から操業を開始する予定。第 1 フェーズの投資額は約 22 億 2000 万円、従業員は 90 人を予定している。当面 2KW レーザ 2 基、4KW レーザ 2 基、NC 溶断機 6 基のほか、開先機、油圧ベンダー、プレス機、マシニングセンター、溶接ロボット、ショットブラストを導入する。立ち上がり時の製品加工能力は月産 2000 トン程度だが、1 1 年をめどに 3000 トン規模に能力を拡大する。

### 中国の厚中板生産、09 年までに 2000 万トン増（鉄鋼新聞、9/22）

中国で鋼材生産の過剰問題が浮上している。特に厚中板や H 形鋼で過剰幅が大きくなる見込み。07 年に中国の厚中板の生産能力は 700 万トン強に増加したが、今年から来年にかけ更に 2000 万トン増加する見通し。中国の厚中板生産能力は 5 千万トン以上に達する見込み。

### 小谷鋼業、プラズマ溶断機更新（産業新聞、9／29）

小谷鋼業(株)（大阪市西淀川区、小谷浩史社長）は、本社工場の NC プラズマ 1 基を更新し、8 月から稼働させた。今回の更新は旧設備の老朽化対応、生産性の引き上げ、加工の高精度化が狙い。更新後、同社の切板能力は月産 1 5 0 0 トン、従来比 2 5 % 増。建築向けを主力に、造船、産機、店売り向けに切板を行っている。

### 庄内シャーリング、プラズマを増設（鉄鋼新聞、9／29）

㈱庄内シャーリング（山形県鶴岡市、池田恭平社長）は、工程上ネックとなっていた切断能力を増強するために大型プラズマを増設する。本社工場に 1 2 月に導入する予定。月間能力は 300 トン増加し、2800 トンとなる。同社は本社工場で主に切断、穴あけなどを行い、第 2 工場でステンレスも含めたビルド H 形鋼の製作や加工を行っている。